

読売新聞 きょう（9月13日）のイチ押し

1面 サイバー積極防御へ 国家安保戦略

通信や電力といった重要インフラなどに対するサイバー攻撃への防御を強化するため、政府は、攻撃の兆候の探知や発信元の特定を行う体制を導入する検討に入りました。本紙の特ダネです。

- ★ 「積極的サイバー防御」（アクティブ・サイバー・ディフェンス）と呼ばれ、サイバー空間を常時監視して、安全保障上の脅威となり得る不審な通信や挙動をいち早く把握し、対処します。
- ★ 政府は国民の権利に配慮しつつ、来年以降に法制度を整備するほか、内閣サイバーセキュリティセンターや自衛隊のサイバー防衛隊などの要員増強もはかります。
- ★ 積極的サイバー防御は、年末までに改定される国家安全保障戦略に方針が盛り込まれる方向で調整されます。この戦略を含む安全保障関連の3文書について、特別面「基礎からわかる」（8面）で現行の内容や改定のポイントなどを詳しく解説しています。

1面など 辺野古反対 玉城氏再選 沖縄知事選

沖縄県知事選が11日に投開票され、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古への移設に反対する現職の玉城デニー氏が、前宜野湾市長の佐喜真淳氏、元郵政改革相の下地幹郎氏の両新人を破って再選されました。

- ★ 辺野古移設反対の保守の一部と革新が共闘する「オール沖縄」勢力の当選は3回連続です。玉城氏は「県民は移設反対を表すために私を当選させた」と強調しました。
- ★ 佐喜真氏は「移設容認」の立場を明言して挑みましたが、及びませんでした。一方、同日に投開票された宜野湾市長選は、移設を容認する与党系現職が再選を果たしました。

他紙と比べて

芸術家・岡本太郎と漫画家・楳図かずおの大阪市内での展覧会について、文化面（24面）と特別面（35面）でそれぞれ特集しています。作品も、作家本人のキャラクターも独特の個性を放ち、多くの人を引きつけてきた2人ですが、展覧会もそれぞれの個性が投影された、見所の多い内容となっています。